

IOSプラットフォームで一致する着信/発信ダイヤルピアについて

内容

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[表記法](#)

[着信ダイヤルピアの照合](#)

[着信ダイヤルピアの要素と属性](#)

[着信ダイヤルピアの照合プロセス](#)

[デフォルトのダイヤルピア 0 \(peer tag=0、pid:0 \)](#)

[isdn overlap-receiving に関する特記事項](#)

[発信番号フィールドが空の POTS コールに関する特記事項](#)

[空の着信番号に関する特記事項](#)

[発信ダイヤルピアの照合](#)

[DID \(ダイヤルイン方式\) の場合](#)

[DID 以外の場合](#)

[可変長ダイヤルプランに関する特記事項](#)

[ダイヤルピアの動作ステータス](#)

[ダイヤルピアに関する補足情報](#)

[ケーススタディ：着信照合とデフォルトダイヤルピア0について](#)

[設定](#)

[関連情報](#)

概要

このドキュメントでは、着信および発信ダイヤルピアを従来の電話サービス(POTS)および音声ネットワークコールレグに照合する方法について説明します。

前提条件

要件

次の項目に関する知識があることが推奨されます。

- [ボイス - Cisco IOS®プラットフォームにおけるダイヤルピアとコールレグについて](#)
- [ボイス - Cisco IOS プラットフォームにおける着信および発信ダイヤルピアについて](#)

使用するコンポーネント

このドキュメントの内容は、特定のソフトウェアやハードウェアのバージョンに限定されるものではありません。

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されました。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、初期（デフォルト）設定の状態から起動しています。本稼働中のネットワークでは、各コマンドによって起こる可能性がある影響を十分確認してください。

表記法

ドキュメント表記の詳細は、『シスコ テクニカル ティップスの表記法』を参照してください。

着信ダイヤル ピアの照合

着信ダイヤル ピアの要素と属性

ダイヤル ピアの照合には、コール設定メッセージ内の 3 つの情報要素と、設定可能な 4 つのダイヤル ピア コマンド属性が次のように使用されます。

- 着信 POTSダイヤルピアは、初期ルータまたはゲートウェイ上の着信POTSコールレグに関連付けられます。
- 着信音声ネットワークダイヤルピアは、終端側ルータやゲートウェイの着信音声ネットワークコールレグと関連付けられます。音声ネットワークコールレグの例には、Voice over IP (VoIP)、Voice over Frame Relay (VoFR)、Voice over ATM (VoATM)、Multimedia Mail over IP (MMoIP; マルチメディア メール オーバー IP) などがあります。

設定可能な4つのCisco IOSダイヤルピア属性と関連するコール設定要素を次に示します。

ダイヤル ピア属性	説明
<code>gwy(config-dial-peer)#incoming called-numberDNIS_string</code>	このダイヤル ピア コマンドは、着信番号宛先または dialed number identificationされていると、このダイヤル ピア コマンドは着信番号を使用して、着信コ
<code>gwy(config-dial-peer)#answer-addressANI_string</code>	このダイヤルピアコマンドは、最初の発信者番号(ANI)または自動番号識別(ANI)は発信番号を使用して、着信コールレグと着信ダイヤル ピアを照合し
<code>gwy(config-dial-peer)#destination-patternstring</code>	着信コールレグが一致する場合、このコマンドは発信番号 (初期またはAN
<code>gwy(config-dial-peer)#portport</code>	このダイヤルピアコマンドは、このダイヤルピアへのコールが経由する POT

注：発信ダイヤルピアの場合、このコマンドは着信番号またはDNIS文字列と照合されます

。

3つのコール設定要素は次のとおりです。

コール設定要素 説明

着信番号 (DNIS)	コールの宛先ダイヤル スtringで、ISDN 設定メッセージまたは Channel Association Signaling (CAS; 個別線信号方式) の DNIS から取得されます。
発信番号 (ANI)	発信元を表す番号 Stringで、ISDN 設定メッセージまたは CAS の ANI から取得されます。ANI は、Calling Line Identification (CLID) と呼ばれています。
音声ポート	物理的な POTS 音声ポートを表します。

着信ダイヤル ピアの照合プロセス

Cisco IOS ルータやゲートウェイがコール設定要求を受信すると、着信コールについてダイヤル ピア照合が行われ、各種のセッション アプリケーションにコールをルーティングします。この照合はデジタル単位では行われず、設定要求で受信された完全なデジタル Stringが使用され、設定済みのダイヤル ピアとの照合が行われます。

注: Cisco IOSゲートウェイで設定できるダイヤルピアの最大数は、使用可能なメモリ (DRAM)によって異なります。各ダイヤルピアは、約 6 KB のメモリを消費します。他の CPU 処理用に少なくともメモリ合計の 20 % が予約してあることを確認してください。ダイヤルピアがコールルーティングに使用される場合、多数のダイヤルピアがコールをルーティングする遅延に追加される可能性があります。Cisco IOS音声スタックは、アクセスコントロールリストと同様に、ダイヤルピアをトップダウンで検索するため、これは重要な場合があります。

ルータやゲートウェイは、設定メッセージ内の情報要素をダイヤル ピアの属性に照合して、着信ダイヤル ピアを選択します。ルータやゲートウェイは次の項目を、この順序で照合します。

1. 着信番号 (DNIS) と `incoming called-number` コマンド最初に、ルータやゲートウェイは、コール設定要求の着信番号を各ダイヤル ピアに設定された `incoming called-number` に照合します。コール設定は常に DNIS 情報を含むため、着信ダイヤル ピアの照合には `incoming called-number` コマンドの使用が推奨されます。この属性の照合は、`answer-address` コマンドおよび `destination-pattern` コマンドよりも優先して行われます。
2. 発信番号 (ANI) と `answer-address` コマンドステップ 1 で一致するダイヤル ピアが見つからなかった場合、ルータやゲートウェイは、コール設定要求の発信番号を各ダイヤル ピアの `answer-address` と照合します。この属性は、発信者番号 (初期) に基づいてコールを照合する場合に便利です。
3. 発信番号 (ANI) と `destination-pattern` コマンドステップ 2 で一致するダイヤル ピアが見つからなかった場合、ルータやゲートウェイは、コール設定要求の発信番号を各ダイヤル ピアの `destination-pattern` と照合します。この詳細は、このドキュメントの「[ダイヤルピアに関する補足情報](#)」セクションの最初の中黒を参照してください。
4. 音声ポート (着信コール設定要求に関連) と、ダイヤル ピアに設定されているポート (着信 POTS コール レッグに適用) ステップ 3 で一致するダイヤル ピアが見つからなかった場合、ルータやゲートウェイは、ダイヤル ピアに設定されているポートを着信コールに関連付けられている音声ポートと照合します。複数のダイヤル ピアに同じポートが設定されて

いる場合は、設定に最初に追加されたダイヤルピアが照合されます。

- 最初の4つの手順で一致するダイヤルピアが見つからない場合は、**default dial-peer 0 (pid:0)** コマンドが使用されます。

注：ステップ4は、AS5300、AS5350、AS5400、AS5800、AS5850などの音声またはダイヤルプラットフォームには適用されません。1～3のステップのいずれも使用されない場合は、ダイヤルピア0を照合するとコールがダイヤル モデム コールとして処理されます。つまり、お客様には着信コールのダイヤル トーンではなく、モデム トーンが聞こえる可能性があります。

上記の選択プロセスを次のダイアグラムに示します。

Cisco IOS ルータやゲートウェイは、これらの条件の中から1つだけ照合します。ダイヤルピアには必ずしもすべての属性を設定する必要はなく、各属性がコール セットアップ情報に一致する必要もありません。ルータやゲートウェイがダイヤルピアを選択する際に一致する必要がある条件は1つだけです。1つのダイヤルピアが一致すると、ルータやゲートウェイは即時に検索を終了します。

各ステップの実行時には、最長プレフィクスマッチの基準が適用されます。各ステップで一致するダイヤルピアが複数見つかった場合は、明示的一致が最も長いものが選択されます。次の例は、この概念を明確にするのに役立ちます。

着信している着信番号 (DNIS) が「81690」であるとします。ダイヤルピア2が一致します。

```
dial-peer voice 1 pots
  incoming called-number 8....
  direct-inward-dial
!
```

```
dial-peer voice 2 pots
  incoming called-number 816..
  direct-inward-dial
```

注：着信ダイヤルピアの場合、*session target* コマンドは無視されます

デフォルトのダイヤルピア0 (peer_tag=0、pid:0)

ルータやゲートウェイで、どの着信ダイヤルピアも一致しなかった場合、着信コール レッグはデフォルトのダイヤルピア (POTS または音声ネットワーク) に自動的にルーティングされます。このデフォルトのダイヤルピアは、**dial-peer 0** または *pid:0* と呼ばれます。

注：この文には例外があります。AS53xx や AS5800 などの Cisco の音声およびダイヤルプラットフォームは、着信 POTS コールが音声コールとして受信されるためには、設定済みの着信ダイヤルピアが一致することを必要とします。一致する着信ダイヤルピアがない場合、コールはダイヤルアップ (モデム) コールと見なされて処理されます。

*Dial-peer 0(pid:0)*には、変更できないデフォルト設定があります。デフォルトの *dial-peer 0* は、次のようなデフォルト以外の機能、サービス、およびアプリケーションのネゴシエートには失敗します。

- デフォルト以外の音声ネットワーク機能：*dtmf-relay*、*no vad* など

- ダイヤルイン方式 (DID)
- TCL アプリケーション

着信 VoIP ピアの *Dial-peer 0* の設定は次のとおりです。

- any codec
- VAD が有効
- no rsvp support
- fax-rate voice

注：音声のデフォルトDSCPはEFコードポイント101110(RFC 2598)で、シグナリングのデフォルトDSCPはAF31コードポイント011010(RFC 2597)です。デフォルトのダイヤルピアは、DSCP 0 へのパケットのマーキングを行いません。ルータ上のすべての音声パケットはデフォルトでマーキングされ（これはダイヤルピアによって上書きされます）、AF31 を使用して信号化され、EF を使用してメディア化されます。デフォルトのダイヤルピア0に一致するコールでも、この動作が必要です。</p></div>

着信POTSピアの *Dial-peer 0(pid:0)* の設定は次のとおりです。

- no ivr application

この概念の詳細な説明については、このドキュメントの「[ケーススタディ：着信照合とデフォルトのDial-Peer 0について](#)」セクションを参照してください。

isdn overlap-receiving に関する特記事項

ISDN インターフェイスに `isdn overlap-receiving` コマンドが設定されている場合、着信ダイヤルピア照合が行われる意味があります。ISDN レイヤでディジットが1つ受信されるたびに、照合のためにダイヤルピアがチェックされます。完全一致が行われると、コールは追加のディジットがルーティングされる前にただちに（この場合はセッションアプリケーションに）ルーティングされます。このディジット単位の照合を保留し、ルータやゲートウェイをすべてのディジットが受信されるまで強制的に待機させるには、「T」ターミネータを使用できます。「T」は ISDN レベルの T302 デジット間タイマーを意味し、ISDN インターフェイスに関連付けられたシリアルインターフェイスに対して設定できます。ISDNは、設定するQ.931情報メッセージのSending Complete Information Element(IE)など、ディジットの終了を示すその他のメカニズムも提供します。

発信番号フィールドが空の POTS コールに関する特記事項

次の設定を想定します。

```
dial-peer voice 1 pots
  destination-pattern 9T
  port 1/0:1
```

発信番号情報のない着信コールが着信し、`destination-pattern 9T` コマンドに基づいてPOTSダイヤルピアと照合されると仮定します。この場合、Cisco IOSルータまたはゲートウェイは、発信者番号として「9」桁を使用し、CallManagerやCisco IOSゲートウェイなどの関連デバイスにコールを転送します。空の発信番号フィールドがこのように置換されることを回避するには、コマンド `incoming called-number command` コマンドのみが設定されたダミーのPOTSダイヤルピアを作成します。着信POTS照合では、`incoming called-number` 文の方が `destination pattern` よりも優先順位が高いため、ダイヤルピア音声2がPOTSダイヤルピアとして使用されます。

```
dial-peer voice 1 pots
  destination-pattern 9T
  port 1/0:1
```

```
!
dial-peer voice 2 pots
  incoming called-number .
```

空の着信番号に関する特記事項ここに示す警告メッセージは、ダイヤルピアがincoming called-number Tを使用して設定されている場合に表示され、実際のルータからの空の着信番号を使用してダイヤルピアの選択に関して質問を出すことができます。

```
RTR(config)#dial-peer voice 1 pots
RTR(config-dial-peer)#incoming called-number T
```

```
Warning: Pattern T defines a match with zero or more digits and hence could
match with an empty number. If this is not the desired behaviour please
configure pattern .T instead to match on one or more digits
RTR(config-dial-peer)#
```

空の着信番号での着信ダイヤルピアの照合について：

- ・「Null」の着信番号は、ポート番号に比べて、また場合によっては answer-address に比べて、適格性が「低い」とみなされます。したがって、「Null」の着信番号に基づく照合は、answer-address とポート番号のいずれに基づく照合でも一致するものがない場合にのみ行われます。
- ・オーバーラップダイヤルの場合、タイムアウトが発生していないため、「null」の着信番号は「incoming called-number T」と一致しません。
- ・「Null」の着信番号が「incoming called-number T」と一致するのは、ENBLOCK の場合で、なおかつ answer-address とポート番号のいずれに基づく照合でも一致するものがない場合に限られます。「incoming called-number T」の設定時に表示される警告は、この特殊なケースを示します。

発信ダイヤルピアの照合ルータやゲートウェイは、発信ダイヤルピアの照合にダイヤルピアの `destination-pattern called_number` コマンドを使用します。

- ・次に、POTS ダイヤルピアでは、port コマンドが使用されて、コールが転送されます。
- ・音声ネットワークダイヤルピアでは、次に session target コマンドを使用してコールが転送されます。

また、発信ピアの照合時には、DID と非 DID の 2 つのケースを検討する必要があります。

DID (ダイヤルイン方式) の場合DID のダイヤルインが設定された着信ダイヤルピアの例を次に示します。

```
dial-peer voice 1 pots
  incoming called-number 81690
  voice-port 0:D
  direct-inward-dial
```

DIDコール (ワンステップダイヤリングとも呼ばれる) では、セットアップメッセージにはコールをルーティングするために必要なすべてのディジットが含まれており、ルータまたはゲートウェイは後続のディジット収集を行ってはなりません。ルータやゲートウェイが発信ダイヤルピアを検索する際、デバイスは着信ダイヤルストリング全体を使用します。この照合は、デフォルトでは可変長です。DID 定義によりすべてのディジットが受信されているため、この照合はディジット単位では行われません。次の例は、この概念を明確にするのに役立ちます。DID ダイヤルストリングが「81690」であると想定します。このケースでは、ルータはダイヤルピア 4 を照合して、完全なダイヤルストリング「81690」を転送します。

```
dial-peer voice 3 voip
  destination-pattern 816
  session target ipv4:172.22.10.1
```

```
!
dial-peer voice 4 voip
```

```
destination-pattern 81690
session target ipv4:172.22.10.1
```

DIDの詳細については、『[Cisco IOSデジタル\(T1/E1\)インターフェイスにおけるダイヤルイン方式\(DID\)について](#)』を参照してください。DID 以外の場合このケースは、2 段階ダイヤリングとも呼ばれます。一致する着信ダイヤルピアにDIDが設定されていない場合、ルータまたはゲートウェイは番号収集モードに入ります（番号は着信で収集されます）。発信ダイヤルピア照合は、ディジット単位で行われます。ルータやゲートウェイは各ディジットを受信するたびにダイヤルピアとの一致をチェックし、完全に一致するとコールをルーティングします。次の例は、この概念を明確にするのに役立ちます。ダイヤルストリングが「81690」とであると想定します。ルータはディジット「6」を受信するとすぐに、ダイヤルピア 3 との一致を確認し、コールをルーティングします（ディジット「816」のみを転送します）。

```
dial-peer voice 3 voip
destination-pattern 816
session target ipv4:172.22.10.1
```

```
!
dial-peer voice 4 voip
destination-pattern 81690
session target ipv4:172.22.10.1
```

次に、ダイヤルピア 3 でワイルドカード照合が設定されているとします。

```
dial-peer voice 3 voip
destination-pattern 816..
session target ipv4:172.22.10.1
```

```
!
dial-peer voice 4 voip
destination-pattern 81690
session target ipv4:172.22.10.1
```

この場合、最長プレフィクス規則が適用され、発信コール レッグにダイヤルピア 4 が一致します。可変長ダイヤル プランに関する特記事項予期されるダイヤルストリングが一定の数のディジットを持たない状況があります。このような場合、可変長ダイヤルピアを使用するために、ダイヤルピアのdestination-patternコマンドで「T」ターミネータを設定することを推奨します。「T」ターミネータは、すべてのダイヤルストリングが受信されるまで強制的にルータやゲートウェイを待機させます。これを実行するために、「T」ターミネータは、すべてのダイヤルストリングが受信されるまで強制的にルータやゲートウェイを待機させます。ルータやゲートウェイによる動作は次のとおりです。

- デバイスは、コールをルーティングする前に、設定された桁間タイムアウトの間、待機します。
- デバイスは、ダイヤルストリングで「#」終了文字を受信すると、コールをルーティングします。たとえば、「5551212#」をダイヤルした場合、「#」は、すべてのディジットをダイヤルしたこと、および「#」より前のすべてのディジットを使用してダイヤルピアを照合する必要があることをルータに示します。

次の例は、この概念を明確にするのに役立ちます。この例でのルータは、ダイヤルストリング「95551212」が含まれるコール設定をネットワークから受信するものと想定します。次に、ダイヤルピア 2 が PSTN にディジット「5551212」を転送します。

```
dial-peer voice 2 pots
destination-pattern 9T
port 2/0:23
```

着信POTSインターフェイスからのダイヤル文字列が「81690」とであると仮定します。

```
dial-peer voice 3 voip
destination-pattern 8T
session target ipv4:172.22.10.1
```

```
!
dial-peer voice 4 voip
destination-pattern 81690T
session target ipv4:172.22.10.1
```

この場合、最長プレフィクス規則が適用され、発信コール レッグにダイヤルピア 4 が一致します。

- デフォルトのディジット間タイムアウトは 10 秒に設定されています。この値を変更するには、`timeouts interdigit seconds` 音声ポート コマンドを発行します。
- 「T」が使用される場合は、常に「T」の前に「.」またはディジットが必要です (例: 「.T」または「555T」)。「T」のみを使用すると、ダイヤルピアは不適切に動作し、ルータによるコールの処理方法に影響します。

ダイヤルピアの動作ステータスダイヤルピアが照合されるには、そのダイヤルピア動作ステータスが管理上アップ状態になっており、有効である必要があります。ダイヤルピアが動作可能と見なされるには、次の条件のいずれかを満たしている必要があります。

- `destination-pattern`が設定され、`voice-port`または `session target`も設定されます。
- `Incoming called-number` が設定されている。
- `Answer-address` が設定されている。

他にも条件はありますが、これらは主なものです。詳細については、「[ボイス - Cisco IOS プラットフォームでのダイヤルピアの稼動状態について](#)」を参照してください。**ダイヤルピア**

に関する補足情報ダイヤルピア 属性 `destination-pattern` は、着信コール レグと発信コール レグのどちらに適用されるかによって動作が異なります。

- 着信ダイヤルピアの場合、`destination-pattern` は発信番号 (ANI スtring) と照合されます。
- 発信ダイヤルピアの場合、`destination-pattern` は着信番号 (DNIS スtring) と照合されません。

したがって、`destination-pattern`属性を持つダイヤルピアは、発信照合と着信</i>照合の両方で動作できます。**ケーススタディ：着信照合とデフォルトダイヤルピア**

0についてすべてのダイヤルプランには、発信ダイヤルピアと着信ダイヤルピアが必要です。この例では、`maui-gwy-04`ルータへのインバウンドとして着信するPSTN T1接続があります。この場合、着信コールがPSTNから受信されると、ルータは着信者番号の検索を試みます。コールを受信すると、発信者は自動番号識別(ANI)を使用して発信者IDを提供します。この例では、ダイヤルイン方式(DID)の範囲は8から始まります。DNISは、PSTN上のユーザがダイヤルする番号です。これは 11 桁または 10 桁の番号です。`direct-inward-dial`が設定された着信ダイヤルピアと一致する場合、受付担当者の助けを借りずにコールに直接到達できるように、8の後の4つの番号だけが転送され、残りは削除されます。着信ダイヤルピアが設定されていない場合は、`Dial-peer 0` が照合され、コールを処理します。`Dial-peer 0` の属性は次のとおりです。

- すべてのコーデックで機能する
- 音声アクティビティ検出 (VAD) が有効である
- トラフィックを IP プレシデンス 0 としてマークする
- RSVP サポートがない
- FAX-RATE サービスをサポートする

注:IP Precedenceコマンドはデフォルト値の0に設定されているため、IP Precedenceはそのまま渡されます。**設定**

`maui-gwy-04`

```
!--- ! version 12.0 service timestamps debug datetime ! hostname maui-gwy-04
!
isdn switch-type primary-ni
!
controller T1 0
 framing esf
 clock source line primary
 linecode b8zs
 pri-group timeslots 1-24
!
```



```

voice-port 0:D
!
!--- This dial peer is used for !--- inbound DID calls. Dial-peer voice 1 pots
incoming called-number 8....
direct-inward-dial
!
dial-peer voice 3 voip
destination-pattern 8....
DTMF-relay cisco-rtp
session target ipv4:172.22.10.1
!
dial-peer voice 2 pots
destination-pattern 9T
port 0:D
!
interface Ethernet0
ip address 172.22.10.2 255.255.255.0
no ip directed-broadcast
!
interface Serial0:23
no ip address
no ip directed-broadcast
isdn switch-type primary-ni
isdn incoming-voice modem
fair-queue 64 256 0
no cdp enable

```

このケース スタディでは、次の show コマンドと debug コマンドが使用されます。

- **show call active voice {brief}** : このコマンドは、アクティブ コール テーブルの内容を表示し、そのテーブルは現在ルータを経由して接続されているすべてのコールを示しています。この場合、このコマンドはアクティブ コールに関連付けられているダイヤル ピアと機能を表示する際に役立ちます。
- **debug voip ccapi inout** : このコマンドは、エンドツーエンドのVoIPコールのトラブルシューティングに役立ちます。

```

!--- Action: Call is placed from the PSTN through maui-gwy-04
!--- and terminated on an FXS port of maui-gwy-06 (called number: "81560")
!--- Notes:
!--- 1)On maui-gwy-04, the incoming call is received on the POTS dial-peer 1,
!--- which is configured for DID. !--- 2)On maui-gwy-06, no inbound VoIP dial-peer is matched and default
!--- dial-peer=0 is used. Therefore, the DTMF-relay cisco-rtp negotiation !--- fails.
!-----
!--- Output on maui-gwy-04 (Originating Gateway) !-----

!--- This information was captured on the call originating gateway
!--- once the call was placed and active. !--- !--- <ID>: <start>hs.<index> +<connect> pid:<peer_id> <d
!--- This dial-peer was matched based on condition 1 of the Matching Inbound
!--- Dial Peers section of this document. 87 : 415666267hs.1 +107 pid:1 Answer active
dur 00:00:20 tx:101/791 rx:100/3200
Tele 0:D:93: tx:20600/2000/0ms g729r8 noise:-56 acom:0 i/0:-55/-70 dBm

!--- VoIP (keyword IP) dial-peer 3 is matched outbound (keyword Originate).
!--- This dial-peer was matched based on the destination-pattern command. 87 : 415666268hs.1 +106 pid:3
dur 00:00:20 tx:100/2000 rx:101/1991
IP 172.22.10.1:18160 rtt:2ms pl:1990/40ms lost:0/1/0 delay:69/69/70ms g729r8

```

```
maui-gwy-04#show call active voice
```

```
!---
```

```
VOIP: RemoteIPAddress=172.22.10.1 RemoteUDPPort=18160 RoundTripDelay=4 ms SelectedQoS=best-effort tx_Dt
SessionProtocol=cisco
SessionTarget=ipv4:172.22.10.1
VAD = enabled
CoderTypeRate=g729r8
CodecBytes=20
SignalingType=cas
```

```
!-----
!--- Output on maui-gwy-06 (Terminating Gateway)
!----- maui-gwy-06#show call ac
```

```
!--- This information was captured once the call was placed and active.
!--- !---
```

```
Total call-legs: 2 87 : 257583579hs.1 +105 pid:0 Answer active
dur 00:10:03 tx:1938/37069 rx:26591/531820
IP 172.22.10.2:18988 rtt:lms pl:528740/160ms lost:0/1/0 delay:50/50/70ms
g729r8
```

```
87 : 257583580hs.1 +104 pid:1 Originate 81560 active
dur 00:10:05 tx:26648/532960 rx:1938/37069
Tele 1/0/0 (96): tx:605710/37690/0ms g729r8 noise:-46 acom:
0 i/0:-46/-61 dBm
```

```
maui-gwy-06#show call active voice
```

```
!--- Total call-legs: 2 VOIP: RemoteIPAddress=172.22.10.2 RoundTripDelay=2 ms SelectedQoS=best-effort t
FastConnect=FALSE
Separate H245 Connection=FALSE
H245 Tunneling=FALSE
SessionProtocol=cisco
VAD = enabled
CoderTypeRate=g729r8
CodecBytes=20
SignalingType=ext-signal
```

```
!--- Output from debug voip ccapi inout.
!---
```

```
*Mar 30 19:30:35: cc_api_call_setup_ind (vdbPtr=0x620AA230,
callInfo={called=81560,
called_oct3=0 calling=,calling_oct3=0x0,calling_oct3a=0x0,
calling_xlated=false,
subscriber_type_str=Unknown, fde,peer_tag=0, prog_ind=0},
callID=0x62343650)
*Mar 30 19:30:35: cc_api_call_setup_ind (vdbPtr=0x620AA230,
callInfo={called=81560,
calling=, fd1 peer_tag=0}, callID=0x62343650)
*Mar 30 19:30:35: >>>>CCAPI handed cid 95 with tag 0 to app "DEFAULT"
.....
```

```
!--- Outbound POTS dial-peer 1 is matched. *Mar 30 19:30:35: ssaSetupPeer cid(95) peer list: tag(1)
called number (81560)
*Mar 30 19:30:35: ccCallSetupRequest (Inbound call = 0x5F,
outbound peer =1, dest=,
params=0x621D4570 mode=0, *callID=0x621D48D8, prog_ind = 0)
*Mar 30 19:30:35: peer_tag=1
```

ここで、次のコマンドを追加して、maui-gwy-06 で着信 VoIP dial-peer 2 を照合します。

```
maui-gwy-06#config t
```

Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
maui-gwy-06(config)#dial-peer voice 2 voip

!--- This command uses the DNIS(called number)to match the inbound call leg
!--- to the dial-peer. maui-gwy-06(config-dial-peer)#incoming called-number 8....

これは、設定を追加した後の maui-gwy-06 設定のスナップショットです。

```
!--- dial-peer voice 1 pots destination-pattern 81560 port 1/0/0 ! dial-peer voice 2 voip
incoming called-number 8....
destination-pattern 9.....
session target ipv4:172.22.10.2
dtmf-relay cisco-rtp
!
```

```
!--- Action: Call is placed from the PSTN through maui-gwy-04 !--- and terminated in an FXS port of mau
!--- Notes: !--- 1)On maui-gwy-04, the incoming call is received on the POTS dial-peer 1,
!--- which is configured for DID.
!--- 2)On maui-gwy-06, dial-peer 2 voip is matched inbound, and dtmf-relay
!--- Cisco RTP is negotiated.
!-----
```

```
!--- Output on maui-gwy-06 (Terminating Gateway) !-----
```

```
!--- Total call-legs: 2 !--- Notice that in this case, the inbound VoIP call leg is matched to !--- dia
dur 00:01:01 tx:485/8768 rx:2809/56180
IP 172.22.10.2:16762 rtt:2ms pl:52970/120ms lost:0/1/0 delay:
60/60/70ms g729r8
```

```
8B : 258441269hs.1 +175 pid:1 Originate 81560 active
dur 00:01:02 tx:2866/57320 rx:512/9289
Tele 1/0/0 (98): tx:64180/9640/0ms g729r8 noise:-46 acom:
0 i/0:-46/-61 dBm
```

maui-gwy-06#show call active voice

```
!--- VOIP: RemoteIPAddress=172.22.10.2 RoundTripDelay=1 ms SelectedQoS=best-effort tx_DtmfRelay=cisco-r
FastConnect=FALSE
Separate H245 Connection=FALSE
H245 Tunneling=FALSE
SessionProtocol=cisco
SessionTarget=
VAD = enabled
CoderTypeRate=g729r8
CodecBytes=20
SignalingType=cas
```

関連情報

- [Cisco IOS プラットフォーム上でのダイヤルピアとコール レッグについて](#)
- [ボイス - Cisco IOS プラットフォームにおける着信および発信ダイヤルピアについて](#)
- [ボイス - Cisco IOS プラットフォームでのダイヤルピアの稼働状態について](#)
- [ボイス - Cisco IOS デジタル \(T1/E1\) インターフェイスでのダイヤルイン方式 \(DID\) について](#)
- [コーデックについて : 複雑度、ハードウェア サポート、MOS、およびネゴシエーション](#)
- [テクニカル サポートとドキュメント - Cisco Systems](#)

翻訳について

シスコは世界中のユーザにそれぞれの言語でサポート コンテンツを提供するために、機械と人による翻訳を組み合わせて、本ドキュメントを翻訳しています。ただし、最高度の機械翻訳であっても、専門家による翻訳のような正確性は確保されません。シスコは、これら翻訳の正確性について法的責任を負いません。原典である英語版（リンクからアクセス可能）もあわせて参照することを推奨します。